

静岡東高校にはいわゆる校訓はありませんが、その代わりに「自分に負けるな」という生徒の実行目標があります。この目標の意味するところは深く、達成することはなかなか大変なことです。例えば、まず、自分とは誰か、どんな存在なのか、知らなくてはなりません。また、自分の目標をそれも高い目標を自分で立て、その達成の道筋を考えなくてはなりません。さらに、その目標に向かってそれを邪魔するもう一人の自分と戦い、負けないようにしなくてはなりません。こうした、不断の努力や厳しさがこの言葉の中にこめられています。以上の点を踏まえ、以下の問いに答えなさい。

- 1 次の文章は、ある画家が自分の生き方・目標に目覚めた様子を、筆者が代わりにつづったものです。これを読んで、以下の問いに答えなさい。 (25点)

三十五歳までに一かどの絵描きになってみせる。もし三十五歳すぎても芽が出ないようなら、もうダメだとあきらめよう。そう考えて三十二歳のそのときまで、思いつめていた私だった。人並の努力もしているつもりだった。徐々にではあったが、努力は報われつつあった。どうやら絵らしい絵が描けるようになり、それなりの評価を受けようになってきた矢先に召集令状が舞い込んできたのだ。私は絵描きとして死刑宣告でも受けたような気持だった。

しかし、今にして思えば、そのとき死刑の宣告を受けたのは、①アルチザンとしての私だったのだ。アルチザンとして死ぬことによって、私はアルチストとしてよみがえることができた。

思うにアルチザンとアルチストを区別するものはモチベーションにあるといえるだろう。アルチザンとは職業として絵描きを選ぶ者であるのに対して、アルチストとは人間の生き方として絵を描くことを選ぶ者のことをいうのではないか。もちろん、かつての私が骨の髄までアルチザンだったとはいうまい。今の私が完全なアルチストであるともいうまい。多分二人はいつも②ドウキョしているのだ。

だが、三十歳の私は同じように表現技術に苦労を重ねていたとしても、それは内的イメージに無限に接近しているという努力というより、むしろそれだけの確固としたものを自分の内側に持たず、単なる曖昧な美的判断力を基準に空しい努力を重ねていたというべきではないだろうか。対象に迫ることによって必然的にスタイルが生まれてくるのではなく、意識的にスタイルを確立しようとしていたのではないか。その結果として私は、③タイシユウ作家がいいネタを探し求めるように、絵のいいモチーフを探しまわっていた。④主客が転倒していた。そのため、よりよき表現よりは、よりうまい表現を⑤狙っていたのだ。

東京に出たいと願っていたことも、それと無関係ではあるまい。絵かき仲間との接触や交流に私は何を求めていたというのか。そんな所から新しいモチーフが生まれたとしても、新しい表現技術を学んだとしても、それは⑥皮相のことでしかないだろう。必要なものは、外なるものではなく、内なるものであることを私は忘れていたのだ。

シベリヤがそんな私を徹底的に叩き直してくれた。シベリヤで⑦私は真に絵を描くことを学んだのだ。それまでは、いわば当然のことと前提していた絵を描くことができるということが、何物にもかえがたい特権であることを

知った。㉔それが失われたときはじめて私は水を失った魚のように自分の命を支えていたものを知ったのだ。描いた絵の評価、画家としての名声、そんなこととは一切無関係に、私はただ㉕無性に絵が描きたかった。そして、以前は苦勞して求めていたモチーフが、泉のように無限に自分の中から湧いてくるのだった。

私は決心した。今度日本に帰ったら、故郷の三隅<sup>みすみ</sup>の町で一生を送ろう。モチーフはどこにでもある。私がいる所にモチーフもあるのだ。㉖これほど夢の中にくり返しよみがえる故郷をおいて、いったいどこが私の仕事場にふさわしいといえるだろう。

( 立花隆<sup>たかし</sup> 『香月泰男<sup>かづきやすお</sup>の世界』による )

問1 二重下線㉗～㉙の漢字は読みを書き、カタカナは漢字に直しなさい。

問2 下線㉚の具体的な姿と言えるものを、次のア～エからすべて選び記号で答えなさい。

- ア 一かどの絵描きになってみせると思う。 イ 描いた絵が評価されることをうれしく思う。  
ウ 大切なものは外なるものではないと考える。 エ よりうまい表現技術を学ぼうとする。

問3 下線㉛は具体的にどのような内容ですか。文中の語句を用いて55～60字で説明しなさい。

問4 下線㉜「皮相」とは、どのような意味ですか。次のア～エから選び記号で答えなさい。

- ア うわべ イ その場しのぎ ウ 子どもだまし エ 思いつき

問5 下線㉝で学んだ内容として不適当なものを、次のア～エから一つ選び記号で答えなさい。

- ア 描きたいという気持ちが強ければ、モチーフは湧いてくるものであるということ。  
イ 絵を描くことができるというのは大変恵まれていることだということ。  
ウ 絵の評価や画家としての名声は、絵を描く喜びとは無関係だということ。  
エ 描くことの意味を理解するには、いったん描くことから離れる必要があるということ。

問6 下線㉞「それ」の指示内容を抜き出しなさい。

問7 下線㉟「無性」の「性」と同じ読みをする熟語を、次のア～エから選び記号で答えなさい。

- ア 属性 イ 性質 ウ 性分 エ 性格

問8 下線㊱について、「私」が故郷を「仕事場にふさわしい」と考えている理由を45～50字で説明しなさい。

問9 本文は時間の経過から2つに分けることができます。「アルチスト」の私の姿を描いた段落はどこからですか。その段落のはじめの5字を答えなさい。



といった不満を口にしていました。⑩社会的な成長のなかで形成されていくものとして自分の本質をとらえていないので、この世に生まれ落ちたときから大人と対等な一人前の人間だと自分のことを思っているのでしょう。

( 土井隆義『「個性」を煽られる子どもたち』による )

問1 二重下線㉑～㉒の漢字は読みを書き、カタカナは漢字に直しなさい。

問2 空欄1～4に、次のア～エを一度ずつ用いて入れ、それぞれ記号で答えなさい。

ア あたかも      イ たぶん      ウ すでに      エ あえて

問3 下線㉑のような傾向を端的に表現している言葉を、文中から抜き出しなさい。

問4 空欄aにふさわしい表現を次のア～エから選び記号で答えなさい。

ア 絶対的      イ 個人的      ウ 相対的      エ 流動的

問5 下線㉑で筆者は、個性には①他者との比較の中で気づくもの、②人間関係の中で培って行くものという二つの側面があると暗に指摘していますが、この二つの側面を、前の二段落ではどのような言葉で表現していますか。それぞれ10字以内で抜き出しなさい。

問6 空欄bに当てはまる文中の語句のうち、最も適切だと思われるものを抜き出しなさい。

問7 下線㉑の「希」と同じ言葉の使い方をしている熟語を、次のア～ウから選び記号で答えなさい。

ア 希望      イ 希求      ウ 希少

問8 あなたは、下線㉑「社会的な成長」とはどのようなことだと考えますか。本文の内容を踏まえた上で、あなたの身のまわりのことを例にあげて65～75字で書きなさい。